

# 聖化

Japan Holiness Association

[発行] 日本聖化協力会

2010.5.12  
No.47



## 教会の枠組みにおける聖化

日本聖化協力会副会長

松沢力男

私はジョン・ウエスレーの流れを汲み、聖化を重んずる教団にいる牧師として、今まで二つのこの問題の解決を求めてきました。その一つは、「メソジストの流れを汲む教団や団体が千々に別れていった」という分裂ということであり、もう一つは、「教会論が弱い」ということでした。しかし、牧師になって四二年になるこの時、これに対する解決を見出したように思えます。それは、聖書では、教会という枠組みの中で、聖化、即ち

きよめがいわれていることです。これは、聖書は旧約ではイスラエルの共同体という枠の中で、また、新約では教会という枠組みの中で、聖化、即ち、きよめを記しているということです。キリストを抜きにしたキリスト教会は存在しないし、また、キリスト教会から切り離されたキリスト者は存在しないのです。なぜなら、頭のない体の存在はあり得ないからです。ただし、誤解のないように断っておきますが、この教会とは、必ずしも制度的な教会を指す訳ではなく普遍的な教会のことです。そして、この普遍的な教会は使徒信条の「聖なる公同の教会」につながるものです。なぜなら、「公同の教会」とは「普遍的な教会」のことだからです。更に、この「聖なる公同の教会」は、神

によるキリストを頭かぶとした唯一の教会です。そして、この普遍性と唯一性は必ず地上の教会に見える形で示される必然性をもってします。

さて、聖ということを取り上げるとき、まず、レビ記一九章一節の「あなたがたの神、主なるわたしは、聖であるから、あなたがたも聖でなければならぬ」が引用されますが、その章では安息日、偶像礼拝の禁止、酬恩祭、そして主を中心とした愛の共同体の形成が語られています。エペソ四章22、23節に「古き人を脱ぎ捨て、心の深みまでも新たにされて」とありますが、これはキリストのからだである教会という枠組みの中で、一致し、建てあげることが目的として、「そこで、わたしは主にあつておごそかに勧める」(エペソ四・17)と記されています。そして、その結論ともいうべき御言葉が「旧き人を脱ぎ捨て……」なのです。更に、ヨハネ一五章のぶどうの木とその枝は教会のメタファー(隠喩)といわれますが、キリストという木につながっているキリスト者というところで、キリストを頭としたその体である教会に連なっているキリスト者に通じるものです。そこで、実を結ぶためにはきよめられることとながっていることの大切さがいわれているのです。

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 「共に祈る交わり」の提案…………… p.3
- 日ごろ考えていること三点…………… p.2
- 聖化の恵みを受け継いでいくために…………… p.4

一九八五年に日本聖化交友会が生まれ、三年後の一九八八年に東海聖化交友会が発足した。二〇〇八年には日本聖化協力が規定と組織を新設定してスタートした。この会の発展を願う上で、日ごろ考えていることを三点ばかり披露したい。

■全国評議員会について

毎年三月には全国評議員会が開催され、何回か出席してきた。①新年度事業計画と予算、②加盟教団の交流、③地方聖化交友会の交流、④出版部門からの報告、の四つを扱っている。出席人数が多いこと会議時間が長いのが特色のような気がする。

東海から出席して感じていることは、地方聖化交友会からの参加意識がやや低い点にある。提案としては、関東聖化交友会を除く全部の地方代表者の交通費をプール制にし、均等額を各地方交友会が負担すれば、自主的参加意識が育っているのではないかと考える。

■日本聖化協力会から受ける恩恵

地方聖化交友会は、日本聖化協力会からどんな恩恵をうけているのか、わたし



東海聖化交友会会長  
日本イエス・キリスト教団名古屋教会牧師  
松浦 剛

日ごろ考えていること三点

なりに数えてみた。

①年に二回発行される機関紙「聖化」を通して、関東聖化交友会はじめ他の地方聖化交友会との一体感を味わえる。②出版部門からの書籍の流通、③海外講師による聖会の実施、④全国におられる聖会講師の存在を知る、⑤日本聖化協力会に分担金を送付することで貢献意識を養う。

海外講師が関東↓栃木↓宮城↓山形↓北海道へと巡回する年があってもよいと思う。

■下降対策の話はなぜ出ないのか

東海聖化交友会は二十三年間の歩みを継続してきて、すでに発展のピークを過ぎて聖会出席人数他が下降傾向にある。比較的若い信徒のための別プログラムの設定の必要性を論じている。

このような下降対策は関東や他の聖化交友会ではどのようにしておられるのだろうか。情報交換したり、地方聖化交友会同士の交流をしたりして、お互いに真剣に祈っていかなければならないのではないか。このような話題が出ないことを憂えている。

2010年 各地の聖化大会

|    |                        |                       |    |                            |                      |
|----|------------------------|-----------------------|----|----------------------------|----------------------|
| 札幌 | 第3回 北海道聖化大会<br>本間義信師   | 5/18～19<br>北海道クリスチャンC | 東海 | 第23回 東海聖化大会<br>S・ハーバー師     | 10/21～22<br>IGM名古屋教会 |
| 宮城 | 第22回 仙台聖化大会<br>平位全一師   | 9/23<br>日基仙台青葉荘教会     | 大阪 | 第58回 Wに学ぶ会<br>立石貴美子師・岩本助成師 | 5/25<br>ナザレン大阪桃谷教会   |
| 山形 | 第15回 山形聖化大会<br>竿代信和師   | 9/23<br>兄弟団米沢教会       |    | 第59回 Wに学ぶ会<br>鎌野師・畑野師・松沢師  | 9/24<br>救世軍セントラルホール  |
| 栃木 | 第14回 栃木聖化大会<br>錦織博義師   | 5/30<br>兄弟団宇都宮教会      | 岡山 | 第9回 備前聖化大会<br>S・ハーバー師      | 10/24<br>日本イエス香登教会   |
| 関東 | 第6回 春の青年大会<br>野尻道人師    | 5/29<br>IGM中日黒教会      | 四国 | 第3回 四国聖化大会<br>小林和夫師        | 5/30<br>丸亀聖書教会       |
|    | 第25回 関東聖化大会<br>S・ハーバー師 | 10/17～19<br>W・H淀橋教会   | 九州 | 第21回 九州聖化大会<br>S・ハーバー師     | 10/26<br>兄弟団福岡教会     |
| 遠州 | 遠州聖化大会<br>郷家一二三師       | 2/21<br>IGM浜松教会       |    |                            |                      |
| 東海 | 第17回 東海聖会<br>須郷 進師     | 6/26～27<br>名古屋一麦教会    |    |                            |                      |

「交わり」は、JHA 規則第3条に「協力」と共に掲げられている目的の一つです。

さて、目的は、規則においては最重要の項目ですが、この場合の「交わり」と「協力」は並置されるべきものではなく、交わりがあつてこそ協力があると言う理解が肝要です。そしてそこから、究極の目的である宣教（JHA においては聖化の宣証）が進められてゆきます。

「全国評議員会が、各地の聖化運動の報告をし合うだけの場であるのなら、報告書を送って済ませることでよいのではないか（自分がここに出席している意味があまり認められない）」と言う声を、数年前の会議で聞いた時、私は JHA における交わりの充実の必要を考えさせられました。そこで、今年3月の評議員会では、機会を与えられたので、「運動の活性化は、それを担う人間の活性化から」と言う視点に立って、会議が情報や方策や運営の協議の場であると共に、人が神にあつて共に生かされる「交わり」の場でもあるべきことを提案したわけですから、初代教会の迅速果敢な宣教のいわば根のような部分に「共に祈る交わり」が存在していたのではないかと、

## 「共に祈る交わり」の提案

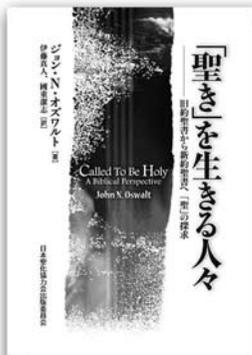
北海道聖化交友会委員長  
単立札幌めぐみキリスト教会牧師  
高橋養二



使徒二章40〜47節、一六章10〜11節他を参照して発題いたしました。また、それがどのようなものであつたかということについては、救いの喜びとキリストへの愛に溢れる場。個々の存在が尊重され、相互理解、和解、共助など、相互の愛が深められる場。聖化の恵みにおいて互いに啓発され成長する場。ヴィジョンと信仰と計画を共有する場。何よりも、神が特別に臨在される場。そのようなものであるとの理解に立って自分の体験を証いたしました。

本稿では、交わりの具体的な方法として、以下のように提案いたします。6〜10名ほどのグループに分かれて、個人的な意見や感想や証しといったものまで範囲を広めた「交わり」を持ち、そのような中から、各地の聖化運動からの、幅広い啓発を受けることもできるのではないかと。さまざまな信仰や経験や人格に触れることによって、その交わりは、人が豊かにされ生かされる、喜びの場とされるのではないかと。この様な交わりは、各地のホーリネス運動においても、同様の意味を持つのであり、そのような中から、きつと良い協力と運動が生み出されてゆくことを、信じる次第です。

### 新刊書のご案内



#### 「聖き」を生きる人々

旧約聖書から新約聖書へ「聖」の探求

ジョン・N・オズワルト著 ● 伊藤真人、國重潔志訳

聖書からきよめを語る本が出版されました。旧約聖書を専門とする聖書学者であるオズワルト博士が、旧新約聖書の語るきよめについて論じたものです。

この本の特色は、旧約聖書の聖



靈論をキリストを軸にまとめ、それに基づいて聖書のきよめを論じていることです。旧新約の聖靈論とそこから語られるきよめのメッセージが一貫していることを論じている点で貴重な書です。



## 聖化の恵みを受け継いでいくために

### —— 関東聖化大会の報告

関東聖化交友会副会長 錦織 寛



10月18、20日にもたれた第24回関東聖化大会において、インドから来られたメシユラムカル師は「きよめから始まる宣教」というテーマの下で講演くださり、また力強いメッセージを語ってくださいました。また日本人講師として立てられた工藤公敏先生はご自身の証しを加えながらきよめられた者の姿を映し出してくださいました。

また火曜日の午後の学びを深める時も、毎回興味深く、本音のテーマが掲げられ、必ず小グループでの話し合いの時を持ちながら、みんなが口を開いて語り合うということが定着してきました。

関東聖化大会の特色の一つは、若手牧師たちによって青年委員会が組織され、その問題提起や企画を執行委員会が最大限受けとめていくこうとされている点にあります。日曜日の夜の青年大会は青年に本気で聖化を伝えようと思うなら、青年向けの聖会を聖日の夜にもってほしいという青年委員会の働きかけからスタートしました。

また火曜日の午後の学びを深める時も、毎回興味深く、本音のテーマが掲げられ、必ず小グループでの話し合いの時を持ちながら、みんなが口を開いて語り合うということが定着してきました。

聖化の恵みに生き、きよめ派のリーダーシップを担ってこられた先輩の先生方に見守られながら、若い牧師たちが労している姿自体が大きな祝福であることを思います。また、関係諸団体の神学校は皆この聖化大会に協力し、授業も合流して参加しています。神学生の交歓夕食会、合同コワイヤによる賛美、そして、表になり裏になって忠実にご奉仕される神学生・修養生たちの姿は、参加者全ての者たちの喜びです。お祈りを感謝いたします。

### 2010年 聖化大会主講師のプロフィール Dr. J. Steven Harper, Ph.D. (スティーブ・ハーバー博士)



テキサス州生まれ。アズベリー神学大学院で神学修士 (M. Div.)。合同メソジスト教会の牧師として約7年間奉仕。デューク大学で哲学博士号を取得 (歴史神学専攻)。  
1980年より、アズベリー神学大学院の教授として多くの学生に親しまれ、その柔らかい語り口と説得力のあるメッセージは定評があり、聖会の講師として各地で用いられている。  
1999年に開校したアズベリー神学大学院フロリダキャンパスの責任者を勤める。ウェスレー研究会の役員を初め多方面で活躍中。専門はスピリチュアル・フォーメーションとウェスレーの研究。福音文書刊行会から『現代に語るウェスレー神学』が翻訳出版されている。

#### 編集後記

今年度から「聖化」編集が出版委員会の責任になりました。印刷所や発送の手配などに追われ、第47号の発行が大幅に遅れてしまいました。

心からお詫び申し上げます。次号からは正規の発行日程に戻します。今回は、高橋養二先生と松浦剛先生に、今後の聖化交友会発展のためのご提言を執筆していただきました。(矢木良雄)

聖化 No.47 2010年5月12日発行

